

クロカジキ 太平洋

Blue Marlin, *Makaira nigricans*



管理・関係機関

中西部太平洋まぐろ類委員会 (WCPFC)
北太平洋まぐろ類国際科学委員会 (ISC)
全米熱帯まぐろ類委員会 (IATTC)

漁業の特徴

本資源を主対象とする漁業は、熱帯・亜熱帯域の一部の小規模沿岸漁業で、我が国でも沖縄のひき締漁業が漁獲している。また、米国や中米諸国、オーストラリア、ニュージーランド、日本等のスポーツフィッシングにおいても主要な対象魚となっている。しかしながら、漁獲量の半分は、まぐろ類を対象としたはえ締漁業やまき網漁業の混獲として漁獲されている。

生物学的特性

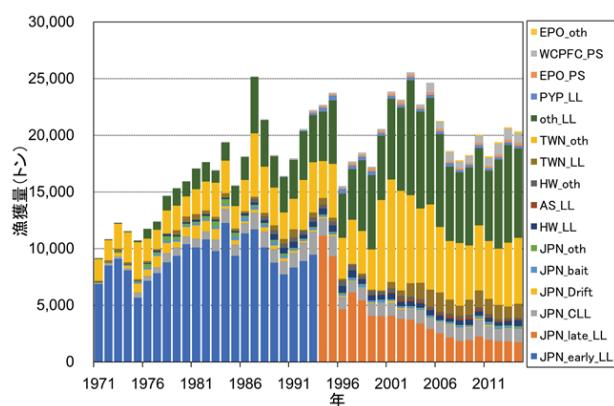
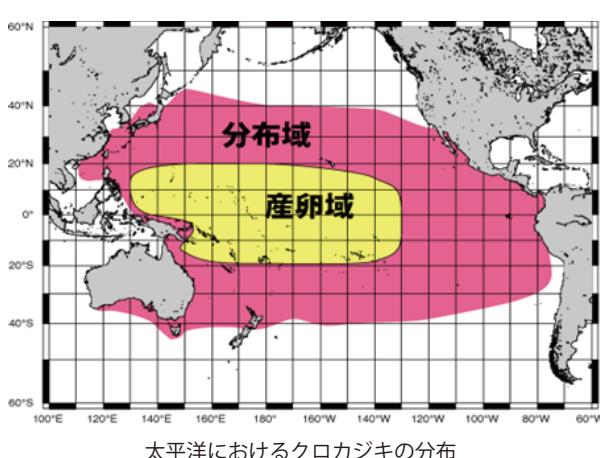
- 体長・体重：雄：眼後叉長 2.0 m・100 kg、雌：眼後叉長 3.0 m・400 kg
- 寿命：調査中
- 50%成熟体長：雄 130～140 cm、雌 179 cm (眼後叉長)
- 産卵期・産卵場：春～夏、赤道～南北 20 度
- 索餌期・索餌場：調査中
- 食性：魚類、頭足類
- 捕食者：大型歯鯨、まぐろ・かじき類などが小型個体を捕食する場合がある。

漁獲の動向

従来本資源の漁獲の大半は日本の遠洋近海はえ締漁業によるものであり、その漁獲量は 1990 年には 9,560 トンあったが、1990 年代後半からは一貫した減少傾向を示し、2014 年には 3,139 トンまで減少した。その一方で、1980 年代より台湾等諸外国による漁獲が徐々に増え始め、特に台湾の漁獲は 2000 年以降我が国の漁獲を上回るようになり、2014 年の漁獲量は 7,031 トンであった。また、中国、インドネシア、韓国等の漁獲も近年増えている。総漁獲量は、1980 年代に 1.5 万トンを超えて以降、1.5 万～2.5 万トン程度で推移している。2014 年は 3,139 トンであった。

利用・用途

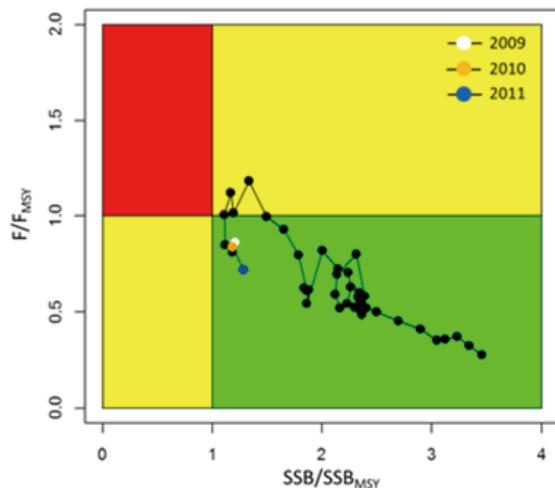
刺身、粕漬け、味噌漬け、惣菜、ステーキ、練り製品、味噌煮等の缶詰



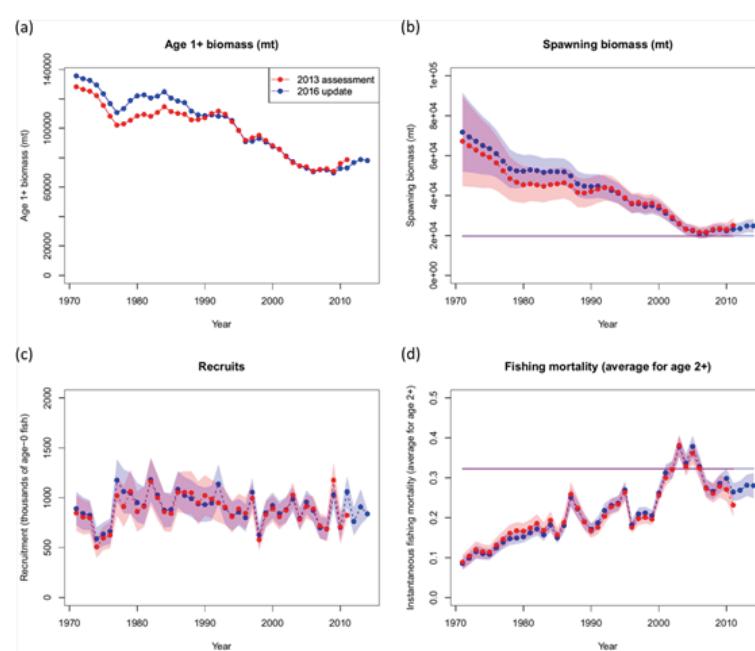
太平洋におけるクロカジキの漁獲量の推移

JPN_early_LL：日本の遠洋・近海はえ締（1971～1993 年）、
JPN_late_LL：日本の遠洋・近海はえ締（1994～2014 年）、JPN_LL：
日本沿岸はえ締、JPN_Drift：日本大目流し網、JPN_bait：
日本その他の釣り、JPN_oth：日本その他漁業、HW_LL：
ハワイのはえ締、AS_LL：米領サモアのはえ締、HW_oth：
ハワイその他漁業、TWN_LL：台湾のはえ締、TWN_oth：
台湾その他漁業、oth_LL：その他はえ締、PYP_LL：仮領ポリネシアのはえ締、
EPO_PS：東部太平洋まき網、WCPFC_PS：WCPFC まき網、EPO_oth：
東部太平洋その他漁業。

資源状態	管理方策
<p>2016年、ISC かじき類作業部会によって本種のアップデート資源評価を実施した。資源評価モデルと将来予測モデルには Stock Synthesis 3 ver. 3.24f が使用され、2014 年の産卵資源量は 24,809 トン (SB_{MSY} の 125%)、2012～2014 年の 2 歳以上の平均漁獲死亡係数は 0.28 (F_{MSY} の 88%) と推定された。これらの結果から、資源は乱獲されておらず、乱獲状態までは至っていないものの、ほぼ満限まで利用されているとされた。なお、近年の資源水準は MSY レベルに近い中位で、近年 5 年間は安定の傾向を示している。また、作業部会は、本種の漁獲の大半が混獲によるものであり、漁獲量の直接管理が難しいことを考慮して漁獲死亡率は近年の水準から上げるべきではないと勧告した。この資源評価の結果は、同年の ISC 本会合及び WCPFC 科学委員会で承認された。</p>	<p>本種の保存管理措置は、WCPFC 及び IATTC それぞれにおいて検討されているところである。</p>

太平洋におけるクロカジキの F/F_{MSY} と SSB/SSB_{MSY} の推移

資源水準	中 位
資源動向	安 定
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	18,615～20,727 トン 最近 (2014) 年: 20,357 トン 平均: 19,749 トン (2010～2014 年)
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	3,139～4,067 トン 最近 (2014) 年: 3,139 トン 平均: 3,431 トン (2010～2014 年)
管理目標	検討中
資源評価の方法	Stock-Synthesis 3 による
資源の状態	$F_{2012-2014}/F_{MSY} (\text{age } 2+) = 0.9$ $SSB_{2014}/SSB_{MSY} = 1.2$ $SSB_{MSY} = 19,853$ トン $MSY = 19,901$ トン
管理措置	検討中
最新の資源評価年	2016 年
次回の資源評価年	未定



Stock Synthesis 3 によるベースケースの結果

(a) 1 歳魚以上の資源量、(b) 雌の産卵資源量、(c) 加入量 ($\times 1,000$ 尾)、(d) 2 歳以上の魚に対する平均漁獲強度。赤線は前回の資源評価結果、青線はアップデート資源評価によって得られた結果。実線部分は推定値を、赤青それぞれの半透明部分は 95% 信頼限界を示す。